

# 「世界の人々の豊かな生活、 温かい社会づくり」をめざして

豊田自動織機グループは、時代の変化やニーズを捉え、

世の中の役に立つ商品を送り出すことで、社会とともに発展を続けてきました。

社祖・豊田佐吉の精神は「豊田綱領」にまとめられ、当社ではこれを社是とするとともに、

その精神を受け継いだ「基本理念」を経営の基本方針として定めています。

当社では、この「基本理念」に基づき「世界の人々の豊かな生活、温かい社会づくり」への貢献を通じて、

今後も事業の持続的な成長をめざしていきます。

## 豊田綱領

豊田佐吉翁の遺志を体し

- 一、 上下一致、至誠業務に服し、産業報国の実を挙ぐべし
- 一、 研究と創造に心を致し、常に時流に先んずべし
- 一、 華美を戒め、質実剛健たるべし
- 一、 温情友愛の精神を發揮し、家庭的美風を作興すべし
- 一、 神仏を尊崇し、報恩感謝の生活を為すべし



## 基本理念

### 【公明正大】

内外の法およびその精神を遵守し、公正で透明な企業活動を実践する

### 【社会貢献】

各国、各地域の文化や慣習を尊重し、経済・社会の発展に貢献する

### 【環境保全 品質第一】

企業活動を通じて住みよい地球と豊かな社会づくりに取り組むとともに、クリーンで安全な優れた品質の商品を提供する

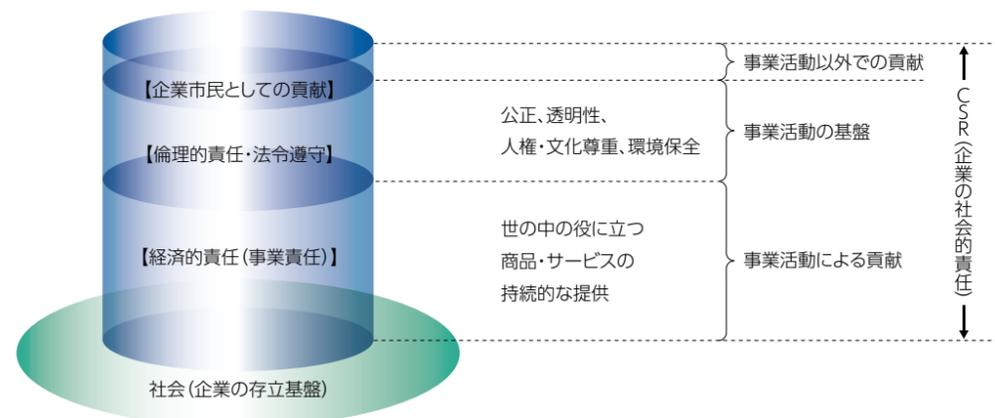
### 【顧客優先 技術革新】

時流に先んずる研究と新たな価値の創造に努め、お客様に満足していただける商品・サービスを提供する

### 【全員参加】

労使相互信頼・自己責任を基本に、一人ひとりの個性と能力を伸ばし、全体の総合力が発揮できる活力ある企業風土をつくる

## 当社のCSR活動



# 目次

ごあいさつ	表紙の裏-1	ステークホルダーとの関わり	
企業理念	2	お客様との関わり	44-45
目次・編集方針・注意事項	3	取引先様との関わり	46
発展の歩み	4-5	株主・投資家の皆様との関わり	47
事業活動の概要	6-7	従業員との関わり	48-51
連結財務・非財務ハイライト	8-9	地域社会との関わり	52-53
トップインタビュー	10-15		
コーポレート・ガバナンス	16-21		
ガバナンス体制	16		
内部統制	17		
コンプライアンス	17-19		
機密管理	20		
リスク管理	20-21		
特集	22-29		
1 お客様の物流を支える豊田自動織機の産業車両事業	22-25		
2 多様な事業を営む強みで世界シェアNo.1商品の競争力を高める	26-29		
		<b>環境への取り組み</b>	
		環境活動のビジョン	54
		環境経営の推進体制	55
		第五次環境取り組みプラン 5年間の着実な歩み	56-57
		第五次環境取り組みプランの総括	58-59
		第六次環境取り組みプラン	60-61
		低炭素社会の構築	62-63
		循環型社会の構築	64-65
		環境リスク低減と自然共生社会の構築	66-67
		環境マネジメント	68-69
		環境負荷フローと環境会計	70
		<b>財務セクション・企業情報</b>	
		財務セクション	72-80
		11年間の連結財務サマリー	72-73
		連結貸借対照表	74-75
		連結損益計算書	76
		連結包括利益計算書	77
		連結株主資本等変動計算書	78-79
		連結キャッシュ・フロー計算書	80
		企業情報	81-83
		取締役、監査役および執行役員	81
		主な生産拠点	82
		投資家情報	83

## 事業の取り組み

産業車両・物流	30-36		
産業車両	30-35		
物流	36		
自動車	37-42		
車両	37-38		
エンジン	38-39		
カーエアコン用コンプレッサー	39-41		
カーエレクトロニクス	41-42		
繊維機械	43		

## 編集方針

幅広いステークホルダーの皆様が当社に対する理解を深めていただくことを目的に、2007年度より「アニュアルレポート」と「社会・環境報告書」を統合し、「豊田自動織機レポート」として発行しています。豊田自動織機グループの経営方針に加え、事業、社会、環境の各分野における1年間の取り組みや今後の方向性などを、読者の皆様にわかりやすくお伝えできるよう心がけました。

## 報告対象期間

2015年度(2015年4月から2016年3月)の活動を中心に記載していますが、一部対象期間外の内容も紹介しています。

## 報告対象の組織

当社および連結子会社を含めた当社グループを対象としています。

## 参考にしたガイドライン

- GRF「サステナビリティ・レポート・ガイドライン第4版(G4)」
- ISO26000
- 環境省「環境会計ガイドライン2005年版」
- 環境省「環境報告ガイドライン(2012年版)」

## 将来見通しに関する記述についての注意

本レポートには、リスクや不確実性を伴う予測や将来に関する記述が含まれています。これらは「見直し」、「見込み」、「予想」、「予測」、「計画」などの表現を使って記載されています。予測や将来に関する記述とは、当社(連結子会社を含む)の今後の計画、見込み、戦略、将来における当社の業績に関する現在の見通しや予想に基づいています。これらの予測や将来に関する記述は、現在入手可能な情報から得られた当社経営者の仮定および判断に基づいており、将来の業績を保証するものではありません。また、当社や当社グループは、新たに入手した情報や今後起こりうる事象をもとに、これらの将来に関する記述を公的に更新したり改訂する義務を負いません。従って、これらの予測や将来に関する記述のみに全面的に依拠することは控えてくださいますよう、お願いいたします。また、実際の業績は、さまざまなリスクや不確実性により、本レポートに記載している予測や将来に関する記述と大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうるリスクや不確実性には、以下のようなものが含まれますが、これらに限定されるものではありません。(1)特定の販売先への依存度、(2)商品開発力、(3)知的財産権、(4)商品の欠陥、(5)価格競争、(6)原材料、部品供給元への依存、(7)環境規制、(8)他社との提携の成否、(9)為替レートの変動、(10)株価の変動、(11)災害や停電などによる影響、(12)国際的な活動に潜在するリスク、(13)退職給付債務